地産地消の
家づくりに取り組む

大工・工務店

地産地消に取り組む大工・工務店 01

青森スギで家を建てる中南地域会

地域の風土に合い、住み心地が良く耐久性の優れた「県産の木材による木造住宅の提供」を追求している団体です。

平成16年(2004年)3月に、『木』に携わる素材生産業や製材加工業、大工・工務店、建築士など11者で発足した。その後、会員が3者増えて現在14者に。

青森スギを使った住宅建築を通じて地元の山に育つ木を活用する必要性を〝啓蒙〟することを主目的とし、毎年、弘前運動公園で開かれる『津軽の食と産業まつり』や、土手町での『カルチュアロード』において、来場者に無垢材で製作した花台や、端材を進呈している。

また秋には『県産材住宅バスツアー』を開催して、黒石市の県森林組合津軽木材流通センターや、青森スギで建てた新築現場などを案内し、啓蒙活動を行っている。

天然スギ・ヒバの混交林 樹齢300年の古木がそそり立つ

木戸繁会長の話　バスから降りたツアーの参加者たちが、スギやヒバの大木を見上げて、すごーい、すごーい、って歓声をあげてましたよ。皆さん、初めて見る天然のスギやヒバに感激して、すっかり子どもに戻ったみたいに顔が輝いてました。樹齢300年の木には、人の心を純真にする力があるんですね。あらためて実感しました。

われわれ『青森スギで家を建てる中南地域会』では、会を設立した平成16年(2004年)から毎年、住宅見学バスツアーを行っていまして、今年(2010年)が7回目でしたが、今回は初めての企画とし

青森スギのきれいな木肌を生かした新築住宅（2010年12月竣工）

大鰐の山中にある天然スギと天然ヒバの混交林

天然のスギやヒバを目の当たりにして、参加者からは思わず、すごーい、という歓声があがる

て、大鰐の山中にある天然スギと天然ヒバの混交林を見学してもらうことにしたのです。

これまでは、チェンソーを使った立木（りゅうぼく）の伐採の模様や、新築中の現場などを案内してたんですが、木を伐り倒すことよりも、もっと先の段階の、山に生えている木の姿を見ることが家づくりの〝始まり〟なのだから、山へ案内しよう、ということで会員の意見が一致しました。

白羽の矢が立ったのが、『大鰐天然スギ・ヒバ混交保護林』でした。説明書（津軽森林管理署発行）によると、スギは湿潤で肥沃な土地を好むのに対し、ヒバは乾燥した劣悪な土地にもよく育つものだが、こ

の大鰐の山では性質の違うもの同士が相寄って素晴らしい美林を形成しながら生活している――という内容が書かれてあります。全国にも極めて貴重な生きた資料なんだそうです。

山奥のその場所まで連れて行ってくれた大型バスの運転手さんが、「長年この仕事してきて、ローギヤでバスを運転したのは初めて」と言ったほど、狭い山道で、両わきから張り出した枝が車体に傷を付けないように注意しながらゆっくり走って、だんだん奥へ進んでいったら、息を飲む光景が現れてきました。古木がにょきにょき生えているというよりは、太鼓の自然の姿がそのまま残っているというような光景です。感動が強すぎると、最初は声が出ないものですね。まず、息を飲む。それ

8寸角の大黒柱に生まれ変わったスギ

山で伐採した木が運び込まれて加工される木材センターを見学する参加者達

から、すごーい、と声があがって、釣られて周囲からも、すごーい、すごーいと、どよめきのように起こる。実際、すごい、としか言いようがありませんものね。

伐採前に『鉞立て』の儀式 山の神と木の神に感謝

山を見、木を見て、それから山で伐採した木が運び込まれて加工される木材センターを見学し、〝川上から川下へ〟の最後の段階となる新築現場を見学してもらいました。

今回、案内した現場（藤崎町）の8寸角の大黒柱は、浪岡の山林で伐り倒したスギから製材したものです。伐採する前に『鉞立て（マサカリダテ）』という儀式を行いました。50年、60年もの長い時間がかかって育った木を伐って、新しく建てる家の大黒柱に使わせてもらうのですから、山の神と木の神に感謝を捧げるわけです。御神酒と塩と魚をお供えし、それから伐採します。チェンソーがなかった昔はマサカリでしたので、それでマサカリダテと呼ばれているのです。

木の切り株に御神酒と塩と魚をお供えし、山の神と木の神に感謝を捧げる『鉞立て（マサカリダテ）』という儀式

バスツアーのときには、あいにく現場では大黒柱にキズがつかないようにカバーで養生していて、見られませんでしたが、それでも見学者の皆さんには、立っている大黒柱の姿が、大鰐の混交林で見てきたスギやヒバの太い老木と重なるらしく、年末に開催する完成見学会にはほとんど全員が見学にきてくれるということでしたよ。今回もまた手ごたえのあるツアーでした。

【会員】㈲木戸建築設計事務所、青森県森林組合津軽木材流通センター、弘前建築組合、弘前地方森林組合、㈲マル先先﨑林業、青森木材高次加工協同組合、家具作人、㈱桜庭建設、㈱佐藤建設、㈲キーポイントホーム、㈱建匠おだぎり、㈲工藤舞台製作所、㈲三浦産業、㈲アオモリパネル

風土に根ざした地元の木で家づくり

青森スギの家

青森スギで家を建てる中南地域会

家づくり会の3つのポリシー（方針）

■スギをはじめとする青森県産の木材をふんだんに使用します
■施主のライフスタイルや意向を十分に取り入れたオンリーワンの家づくりをします
■広く市民に対して、木の良さを積極的に情報発信します

事務局●弘前建築組合／弘前市駅前2-20-17
TEL.0172-33-2995 FAX.0172-33-0266

地産地消に取り組む大工・工務店 02

有限会社 赤穂工務店

ユーザー訪問

松原 様邸

施主は神奈川県横浜市に在住。夏場に一時帰郷するセカンドハウスとして建てた。
■三戸郡五戸町正場沢　■2010年7月竣工
■延べ床面積／15.5坪（51.34㎡）、平屋建て
■使用青森県産材／クリ（土台）、アカマツ（床、梁）スギ（柱、外壁）、カラマツ（ウッドデッキ）。下駄箱、建具もスギ製。

木とふるさとに親しむ人生のセカンドハウス

奥様の話　主人の転勤で神奈川県の横浜市に移り住みまして、定年後のいまも向こうで購入した家に住んでいますが、わたしの父が五戸に残してくれた土地に、いつか家を建てることがずうっと以前からの夢だったんです。主人も同じ青森県の県南の出身ですので、そのことには賛成してくれていました。

その夢が叶うときがきたんです。4年前のことです。所用があって五戸に帰ってきたときに、姉たちと隣の八戸市まで買い物に行ったら、ちょうど八戸えんぶりの開催日で、繁華街の三日町はにぎわっていました。『県産材フェア』と書いた看板が目にとまったのは、大勢の人混みを歩いてるときでした。このフェアと出会ったことが、夢の実現に近づけてくれたのです。

会場の中に入ってみて、県産材とは食材のことではなく、地元の木を使った家づくりを紹介する内容だとわかりました。アカマツ、ヒバ、スギ、クリ、ブナなどといった県産材の種類の多さにびっくりしましたね、こんなにあるんだって。それと、都会で長いこと暮らしていて忘れていた、すべすべとした自然の木の感触や、香りが実に新鮮に感じられましたね。

『木組の匠の実演』コーナーで、日本建築の伝統技が紹介されていました。継ぎ手っていうんですか、初めて見ましたけれど、いろんな種類があるらしいその継ぎ手の一つを、会員の大工さんが、取り囲んだ人たちに説明していまし

ふるさとの高台に建てられたセカンドハウス

施主の希望通り、県産材がふんだんに使われた居間と台所

た。フェアで頂戴したパンフレットに『三八地域県産材で家を建てる会』と書かれてあったので、今年（２０１０年）になってから、事務局の八戸市森林組合に電話をしてみました。五戸の土地に、いよいよ家を建てることにしたからです。

家といっても、自宅は横浜にありますから、孫の夏休み期間中に一緒にそこで過ごしたり、週末にちょっと帰ったりするセカンドハウスですね。

電話をかけた森林組合から、家を建てる会の会長さん（田中裕氏）を紹介され、今度は会長さんが会員の赤穂工務店さんに連絡をとってくれました。

存在感のある分厚い天板の台所のカウンターとテーブルセット

間取りは自分たちで考えたものがありましたので、こんな感じで建ててください、と赤穂工務店に送りました。それと、できれば、県産の木をいっぱい使ってほしい、と要望を添えて。あとは一切お任せでしたね。

山を健全に保つ〝伐っては植える〟

工事が始まる前の3月に、八戸市にある赤穂工務店の事務所をお訪ねしました。そしたら、3年前の県産材フェアで、熱心に継ぎ手を説明され

風が吹き抜けて涼しい透かしの玄関ホールの格子戸

八甲田山が遠望できる掃き出しの窓とウッドデッキ

ていたあの大工さんが、赤穂社長さんだったのです。

フェアでの継ぎ手の説明と同じに、赤穂さんは山のこと、木のことを熱心に話してくれました。木の手入れをしないから山は荒れている。手を入れたくても木が安いので採算が取れない。間伐してもそのまま山に放置しておく。〝伐っては植える〟を繰り返すことで山は健全に保たれる。木が育つ過程で二酸化炭素を吸収してくれるのでその地域の自然環境も保たれる――そんな内容でした。地域を大切にしているからこそ、お話にも熱が入るんですね。その思いが伝わってきました。

施主のあこがれだったという太い現わしの梁

上棟式には参加しましたが、遠方なのでちょくちょく来るわけにはいきませんから、後は完成するまで、赤穂さんに一任でした。「自分の家のつもりでつくらせていただきます」とおっしゃっていただいた赤穂さんの奥様の言葉が心強ったですね。

8月初めの猛暑日に、完成したわが家を見ることができました。車道から坂を上って行った高台に、外壁が板の、山小屋のようなわが家が出来上がっていました。

玄関ホールの格子戸。透かしだから風が吹き抜けて涼しい。台所のカウンターも厚い板。格子戸を開けて中に入ったら、天井に目が引きつけられました。あこがれだったんですよ、太い木で組まれた、見える梁が。

図面の段階でそのことは直接、赤穂さんに伝えたわけではなかったのですけれど、そのへんはちゃんと気持ちを組み入れてくれていたんですね。

床も板（アカマツ）で、八甲田山が見える掃き出しの窓の外にもウッドデッキを付けてくださいました。

さっそく孫を連れて帰ってきて、夏の間、木の家の涼しさと、八甲田山が見えるふるさとの風景に親しまさせていただきます。

有限会社 赤穂工務店

八戸市大字石手洗字油久保6-10
TEL.0178-96-5510 FAX.0178-96-4079
http://www.h4.dion.ne.jp/~akou/
E-mail : akou@k7.dion.ne.jp

地産地消に取り組む大工・工務店 03

稲見建築設計事務所

ユーザー訪問

木立様邸

■青森市堤町
■2010年12月竣工
■延べ床面積／55坪（182.18㎡）
■使用青森県産材／スギ（柱、小割材、下地）、ヒバ（土台、床）、アカマツ（梁）など。

住宅の正面に板を張った外観は特に珍しいものではないが、建てた場所が準防火地域となると、板壁での施工は難しい。それでも、施主の念願なのだから外壁の全面は無理としても、せめて玄関前には板を張ってあげたいと手を尽くして実現させたとなれば、施主の感謝の度合いは大きく違ってくる。

室内に入ると、木が好きな施主の要望を存分に反映してキッチン、ダイニング、リビング合わせた広いワンフロアの床一面にヒバ、柱にはスギを使用している。木の空間でありながら、そこに何ら違和感なく溶け込んでモダンさを醸し出している黒色の金属のパネルが、稲見建築設計事務所が〝看板〟としている輻射冷暖房システムだ。

県産材＋モダンに加え、自然な涼しさや暖かさが快適な住環境を創り出している次世代型の木の家といえる。

室内の冷暖房はパネルを使った輻射式

パネルを結露させるからっと涼しい自然な冷房

ご主人の話　真夏に拝見した稲見さん（稲見公介一級建築士）の見学会で、それまで見たことのない〝冷房〟と出会ったんです。冷房というより、自然な涼しさといった方が合いますね。

クーラーって、冷蔵庫の中みたいに強制的に冷やす感じで、妻は冷え性だから、まったく受け付けないんですが、見学した家は、からっと涼しくて、思わず、「何で冷房してるんですか」って聞きました。「パネルを使った輻射式の冷房です」と教えてくれた方が稲見さんでした。実はそのときに、別のある工務店さんと

話が進んでいたんですが、その見学会をきっかけに、急速に稲見さんの存在が大きくなりました。

奥様の話　稲見さんの見学会を知ったのは新聞広告でした。その広告を見て、最初は、あれ？　と思ったんです。『完成見学会』と書かれてあるから住宅見学会だと察しはつきましたが、ふつう見学会の広告って、家の写真が大きく載っていて、何日から何日までと開催日が書かれてありますでしょ。でも、そういう内容ではまったくなくて、『玄関に入って「おー」と言いましょう』とか、『1Fのキレイさに「さすが」と感嘆しましょう』とか、くすぐられるようなユーモアがあったんですよ。『最後に「稲見さん」と一声かけてみましょう』には思わずクスッと笑ってしまいました。いま思えば、見学会の冷房よりも先に、その広告の面白さに惹かれたのが稲見さんに歩み寄るきっかけだったんですね。

ご主人の話　父が亡くなって、実家に母ひとりになりましたから、ちょくちょく様子は見に行っていたんですが、実家も大分古くなってきていましたし、母ひとりだと冬場の雪片付けもたいへんですし、このままアパートの家賃払って別々に暮らしているよりも実家を建て替えて、同居した方がいいのではと考えるようになったんです。

ローンの返済のことを考えれば、支払いが終わる年齢をあまり遅くしたくありませんでしたしね。

稲見さんと出会って、妻の体質にぴったり合う冷房方法も知りましたし、暖房も同じにパネルを使った輻射式ですから自然な暖かさですし、まだ間取りも何も決まっていませんでしたけど、何件めかの見学会におじゃました際、「お願いします」って頼みました。

木の美しさが調和したモダンな室内

県産材+モダンが“稲見カラー”

奥様の話　結局、信頼感だと思うんです。稲見さんの話、説得力がありましたもの。県産の木材を使う件にしても、ただ使えばいいというものではなくて、稲見さんはこう話したんです。

「他の工務店では屋根垂木にスギを使っているけど、私はアカマツを使う。スギだと長い間の荷重に対して強度上に問題があるので、強いアカマツを使うことにしている。樹種と場所に応じた使い方をきちんとしていかないと、スギは全般に弱いものだという適切でない評価を招くことになる」と。

この話を聞いたときに、お任せできる方だって思いましたね。主人も同感でした。

住環境の性能向上 ライフサイクル CO_2低減

ご主人の話　堤町は準防（準防火地域）なので、こちらが要望している板壁とか、木製の玄関引き戸にするとかは無理だったんですけど、稲見さん、

「それはできません」とはねつけずに、「なんとか工夫してみましょう」って、要望に近づける施工方法を考え出してくれました。一旦はあきらめた板張りも、玄関前にスギ板を張るというかたちで実現してくれたんです。すっごくうれしかったですね。「ほんとうはできないんだけど、これは〝稲見スペシャル〟なんです」って笑っていましたよ。

玄関前にスギ板を張ることで施主の要望をかなえた

稲見建築士の話　室内に設置したパネルに、ヒートポンプで温度を下げた冷水を流すと、冷気に触れた窓ガラスが濡れるのと同じ原理でパネルの表面に結露が起きます。このときに室内の温度が奪われて下がるのですが、同時に除湿もおこなわれるのでカラッとした自然な涼しさが得られます。フローリングのべたつきがないのはそのためです。

エアコンと根本的に違う点は、パネル表面からの輻射で冷房するので気流速度が0・15メートル／秒とほとんど風が発生しないところで、ほこりが舞わないことからアレルギーフリーのシステムになっているのです。

暖房は、太陽エネルギーとヒートポンプを組み合わせて暖めた不凍液をパネルに循環させる温水式の暖房システムを採用しています。南面の壁に設置した真空管コレクターで太陽エネルギーを集め（集熱）、貯湯タンクで熱交換し、次にヒートポンプで温度を高めてパネルに循環させるのです。さっき説明した冷房と同様に、パネルの表面からの輻射による暖房ですので、風が立たず、ごく自然に暖められるために快適な住環境が得られます。

住まいのデザイン性に重点を置くのではなく、住空間の居住性能を向上させてこそ、住宅建築に求められているライフサイクルCO_2の低減につながると考えます。

環境面からも、そのことに重点を置く必要性を訴えた家づくりを広めていきたい。

Architecture Design Office INAMI

稲見建築設計事務所
青森市佃1-5-7
TEL.017-742-2636 FAX.017-742-2637
http://www.a173.org
E-mail : staff@a173.org

■第3回あおもり産木造住宅コンテスト最優秀賞受賞

地産地消に取り組む大工・工務店 04

有限会社 岩木建設

ユーザー訪問

中村 様邸

■七戸町榎林　■2010年7月竣工
■延べ床面積／43.46坪（143.66㎡）
■使用青森県産材／スギ（床、柱、通し柱、桁、造り付けの棚）、ヒバ（トイレ内壁、水周りのカウンター）、タモ（カウンター）、クリ（玄関ポーチの5寸角の柱）、ケヤキ（建て替える前の建物のケヤキを柱に再利用）。

七戸町の国道4号バイパスから東へ折れ、かつてはエゾエノキの木が立ち並んでいたことからその地名が付いたといわれる榎林地区に建つ。玄関前に〝こみせ〟のように屋根をかけた下屋が人目をひく。床にはタタキが打ってあり、井戸端会議ふうにテーブルを囲んで茶飲み話ができ、また自転車置き場にもなる。軒の出が1間（1・8メートル）もあるので、雨も陽射しも防いでくれることから外壁も傷まない。

床も木、壁も天井も木 深呼吸する解放感

中村様の話　岩木建設さんで建てたTさんのお宅を拝見にうかがったときに、玄関に入った瞬間、「あ、これだ」と思いました。建てるならこんな家と頭の中でイメージしていたとおりの空間が目の前にありました。結局、木なんですね。床も木、壁も天井も木。それよりも、玄関に出迎えてくださったTさんの奥様のお顔を見てびっくりしました。子どもを連れていく耳鼻科の受付にすわっていらっしゃる方だったんです。あら、あら、ってお互いにびっくりしちゃって……。

家の中におじゃまさせていただくと、吹き抜けになったリビングの床にも壁にも、見上げる2階の斜めの天井（勾配天井）にも木が張られていて、なんかこう山に入って深呼吸するような解放感を覚えました。

実は、わたしと同じ職場のYさんも、そのころにはすでに岩木建設さんで新築することを決めていて、「話だけでも聞いてみたら。最終的に決めるのはあなただから」と、奨めてくれたことが岩木建設さんを訪ねるきっかけになったんです。Yさんは一昨年（2009年）の3月に岩木建設が開催したチェンソー体験会に参加しました。わたしも行きたかったんですが、その日はちょうど都合が悪くて。

でも、いくら同じ職場とはいえ、建てる家は、Yさんとわたしとではそれぞれ要望も家族構成も間取りも違うから、

施主の中村様母娘

木のぬくもりに包まれてご満悦の施主

ついつい裸足で歩いてしまう心地よいスギの床

て路地を入ってくればすぐ左側に事務所がある、とのことでしたので、車で母を連れて訪ねてみました。いまはそこに住宅展示場が建っていますが、そのときはまだ事務所しかありませんでした。敷地の角に事務所が建っていましたので、その裏側の様子は車からは見えませんでしたが、車を停めたわきに太い丸太が何本も積み重ねられてあって、目を惹かれました。いかにも、木で家を建てている地元の工務店、といった光景です。丸太が看板代わりといいますか、見ただけで工務店って分かります。

実はそのころ、別のある工務店と話が進んでいたんです。その工務店はツーバイ積極的にYさんに相談するのは正直、ためらいがありましたが、「最終的に決めるのはあなただから」と言われて、なんか気持ちが楽になって、さっそく岩木建設さんの事務所（十和田市）を訪ねてみました。

国道4号線沿いのパチンコやさんの看板の手前を曲がっ

収納棚も県産材

再利用したケヤキの柱

天井、柱、床と室内には至るところにスギが使用されている

フォーでした。もう見積もりの段階まで進んでいたんですけど、岩木建設さんの太い丸太を見たら、それだけで丈夫な家が建ちそうな気がしてきたんです。母も、「やっぱり一本物の木のほうがいい」と同じ気持ちでした。

母は、築40年以上になる古い家のケヤキの柱を、これから建てる新しい家の柱に使いたがっていたので、そうなると、やっぱり、ツーバイフォーではなく、一本物の木の家ということになりますよね。Tさんのお宅を拝見しに行ったのはそれからです。

Tさんの奥さんと顔見知りだったということもありますが、床にも壁にも天井にも木をいっぱい使っていて、特にスギの床板がとってもやわらかい感じで、「裸足のほうが気持ちいいもんだから、いつのまにかスリッパを脱いでいて、どこに置いたか分からなくなるんです」と話す奥さんの笑顔にうなずきながら、も

うその時点で岩木さんに頼もうって気持ちが固まっていましたね。

使ってみてお奨め 玄関前の重宝な下屋

完成した自分の家に住んでみて、とっても重宝してるのは、玄関前に屋根をかけた『下屋』です。初めは玄関ポーチの部分だけにかかることになってたんですが、こうしたほうが使い勝手があるからと岩木社長が屋根の部分を広げてくれたんです。幅が1間（約1・8メートル）もあって、その下がタタキですから、テーブルを置けば、昔の縁側みたいに隣近所の人たちが寄り集まって茶飲み話もできますし、息子とバドミントンしてて通り雨がくればすぐに駆け込めますし、自転車もバイクも置けるし、下屋ってこんなに使いみちがあるものだとは初めて知りました。冬になれば雪カキ道具も立てかけておけますしね。これはお奨めですよ。

用途が広い下屋には施主も大満足

お母様の話　小学生の孫が、剣道やってて、道場の床は木の板でしょ、だから、孫のためにも、木の家にしてよかったなって思ってね。それと、亡き主人が残してくれた、前の家のケヤキの柱を、新しい家にも使ってくれて、それがなによりだね。居間の窓のところに2本立ってる柱（8寸角の通し柱）も太いし、太い木を見てると、丈夫そうだから、安心だね。

剣道に励んでいる息子さん

いわ木の家

有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1
TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259
E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp

■第3回あおもり産木造住宅コンテスト特別賞受賞

地産地消に取り組む大工・工務店 05

有限会社 岩渕建築工務所

ユーザー訪問

丹代 様邸

■北津軽郡鶴田町鶴田
■2010年10月竣工
■延べ床面積／32坪（105㎡）
■使用青森県産材／スギ（柱）、マツ（梁）など。

構造材に県産材を50％以上使用、国土交通省の長期優良住宅認定を取得している。

奨められて初めて知った『長期優良住宅』補助

ご主人の話　エルムの街（五所川原市）に近い団地にあった『エルムECOタウン』で、岩渕建築さん（岩渕建築工務所）の展示場を見学しました。並んで建っていた6軒の展示場のうち、結果的には岩渕建築さんの展示場の外観とか室内のモダンな造りが自分たちの好みに合っていたので頼むことにしたんですが、それだけで決めたのではなくて、専務さん（岩渕司専務）さんが、建てる側にとってお得な『長期優良住宅』を奨めてくれたことが一番大きいですね。

はじめ、『ちょうきゆうりょう』といわれても、何のことか分かりませんでした。住宅のことなので、たぶん『長期優良』のことだろうとは察しはついたものの、そんな国の補助制度があるとは聞くまで知りませんでした。

専務さんの説明によると、住宅の耐久性とか耐震性とか、省エネルギー性といった家の性能を向上させて、長持ちさせるのが長期優良住宅ということです。そういえば以前、テレビで、日本の住宅の寿命は約30年で、イギリスやアメリカに比べて極端に短いと言っていたのを見たことがありますから、その必要性は分かる気がしました。短いサイクルで〝作っては壊し〟を繰

室内のモダンな造りが施主のお気に入り

り返してきた結果、廃棄物による環境問題を引き起こした、と解説していたのが印象に残っていますね。

環境問題となると、だんだんと自分の身にも迫ってくるような危機感がありますから、他人事にはしておけません。つい2、3年ぐらい前までは、洪水で水浸しになった町の光景は外国のことと思ってテレビ画面を眺めていたのに、いまでは日本でも洪水が起こるようになってますからね。自分たちの家を長期優良住宅にすることによって、エネルギーをあまり使わない、エネルギーの消費量を少なくすることでCO2の発生を抑えられることになるのだったらと思って、専務さんの奨めに進んで応じることにしたんです。

性能が良くなるということは、車でも同じですが、その分、価格が高くなるということですよね。それが一番気がかりでしたが、専務さんが、青森県建築住宅課が発行した長期優良住宅の小冊子(『Confidence～青森県産材使用長寿命化住宅モデル事例集～』)を開いて、説明してくれました。

「国が住宅の長寿命化を進めているのだから、コストが高くなる分については銀行ローンを借り入れた場合の所得税控除や、建物の登記などにかかる登録免許税などを軽減して支援してくれるのですよ」と。

柱や梁など構造材に県産材50%以上使用

この長期優良住宅の、家の柱とか梁とか、構造材っていうんですか、それに青森県産の木を50%以上使えば、補助金が出るんだそうです。国からの補助金ですね。これも専務さんが教えてくれました。申請してから補助金が出るまで何か月か時間がかかるけ

現代的な内装と美しく調和する木の素材

吹抜け部分から階下を臨む

落ち着いたたたずまいを感じさせる和室

吹抜け部分からの外光が部屋に美しいコントラストを描くリビング

ど、120万円だそうですから、魅力ですよ。地元の木を使うことは今はやりのエコですし、環境づくりに参加して、しかも補助金が出るんだから、お得感が強いですよね。

青森県でも、地元の木をもっと使うようにエコポイント(『あおもり型県産材エコポイント』)を始めたんだそうです。これは、友人から聞いたんですが、県産材を使って家を建てれば、最高で21万円分のポイントがもらえて、家具とか木工品とかと交換できるんだそうです。その友人も、うちと同じに今年(2010年)家を新築して、取得したエコポイントでブナのテーブルと交換したそうですが、工務店の

人がエコポイントを奨めてくれるまでは友人もそういう制度があるなんて知らなかったそうです。

岩渕専務さんが教えてくれた国の長期優良住宅にしても、県のエコポイント制度にしても、まめに勉強してる人なら知ってるんでしょうけど、一般的にはあまり知られていないんじゃないでしょうか。友人が、テレビのコマーシャルに三村知事が登場してエコポイントのことを宣伝してるって言ってましたけど、そうと分かるのはエコポイントのことを知ってるからで、知らない人からすれば、何のコマーシャル？　って思うだけですよね。

県のホームページに載ってるっていっても、私たちがインターネットでアクセスするのはせいぜい工務店のホームページとかブログまでじゃないですか。家を建てる側に直接入ってくる情報の伝わり方がほしいですね。

工務店ばかりじゃなく、施主に直接届く情報の発信の仕方。国の制度とか、県の取り組みとかが、これ見れば分かるといったパンフとか本とかですね。そうすればもっと地産地消に積極的に参加しようと思うようになるんじゃないでしょうか。

開放的な吹抜け部分（左）と白壁にマッチした木製の階段（右）

有限会社 岩渕建築工務所

五所川原市姥萢桜木270-1
TEL.0173-35-6345　FAX.0173-35-6359
E-mail : buchikenhome@gray.plala.or.jp

地産地消に取り組む大工・工務店 06

株式会社 大山建工

ユーザー訪問

W様邸

■弘前市
■2010年8月竣工
■延べ床面積／72坪（239.68㎡）
■使用青森県産材／スギ（柱、梁、天井板、羽目板、造作家具）、ヒバ（土台、外壁一部、羽目板）、アカマツ（梁、床）、ケヤキ（柱）、ナラ（床）など。

地元の山から伐り出したスギを1年半以上もじっくりと天然乾燥させ、赤身の色艶が綺麗に浮いた木目を存分に〝見せて〟使ったスギの家である。

和室の柱もスギ、リビングの天井に見える梁も、板張りもスギ。構造材のみならず、引き戸や障子の造作も、羽目板もスギだ。使用したスギは、幹周りが一抱えに余るほど太く育った樹齢80～90年物で、施主の奥様の実家が所有する山に祖父が植えたもの。

津軽地方では昔からヒバが重用されるが、土台と外壁の一部にヒバを使った以外は、あえてスギを主役にし、スギ特有の緻密な木目と、赤身の木肌で柔らかく包んだ空間造りをしている。南部アカマツの登り梁や、ケヤキの柱、ナラの床など、県産材どうしが味わい深い色合いの調和をみせるW様邸。祖先が育てた木を子孫が生かして建てた、地産地消の家である。

打ち合わせに5年 日本建築の技術継承した家

ご主人の話　大山建工に建てていただくことは、5年前から決めていたことです。その前年に、私の親戚が神奈川県に家を建てまして、拝見する機会があったのですが、和風の見事な出来栄えから、建てた大工の確かな技が見る者に伝わってくる迫力がありました。大山建工の職人技を強く意識し始めたのはそのときからです。

八戸にある大山建工のショウルームを見学しに電車で行ったとき、駅まで迎えにきてくれたのが設計部の黒坂さん（黒坂秀紀一級建築士）でした。お会いするのは初めてでしたが、お名前は存じていました。さっきお話しした神奈川の親戚から、「黒坂さん」の名前は何回も聞いていましたから。

転勤で東京に2年間住んでいたことがありまして、家内と一緒に都内の住宅展示場を

工夫が凝らされた造り付けのテレビボード

ご主人のアイデアが生かされた階段部分の本棚（写真右）

あちこち見て回りましたけど、豪華な洋風住宅が主流で、造りがケバケバしすぎてるというか、現実の暮らしとはかけ離れていてちっとも生活実感がありませんでした。それでなおさら、自分たちが住む家は和風で、ふるさと青森の木を使い、日本建築の技術を継承した木造建築を求める気持ちが強くなったような気がしますね。

黒坂建築士の話　W様邸の設計に当たって、ご主人から『我が家の希望』と題する要望書を手渡されました。日付が05年10月15日となっていますから、5年前のことです。A4の用紙6枚にわたって要望項目が横書きにぎっしり並んでいました。二世帯住宅〈1階・祖父母用、2階・家族用〉、外壁〈和風〉、電気〈オール電化、ソーラーパネル設置〉、ドア〈原則全て引き戸〉……などと全部で84項目ありました。

リビングのテレビボード一つをとっても、W家ではテレビはあまり見ないので普段はマガジンラックの陰に隠れている造りにする――などといった具合に、造作家具や建具のデザインついても膝を付き合わせて細かく打ち合わせを重ねました。

特に階段途中の壁に設けた本棚は、ご主人と一緒に書店や市立図書館を巡って検討を加えましたが、研究熱心なご主人が提案してくださった多くのアイデアが本棚にも家具にも生かされています。

隣家の庭を借景「視線の先に何を見せるか」

奥様の話　「ここにこんなスペースがあればいいな」って話をすると、黒坂さん、次の打ち合わせのときにはちゃんとそれを図面に書き込んで持ってきてくださるんです。そこの（ダイニングの隣を指差して）『土間』もその一つなんですよ。広さは6畳で、夏場は主人の好きな焼肉をしてもいいですし、冬場は漬物置き場にもなりますし、いろいろな使い方ができるスペースですね。

　そこからガラス越しに見えるお隣の庭がいいんです。よく手入れされた枝振りのいい庭木がすぐ外にまるごと見えるんです、自分の庭みたいに。借景ですよね。そう眺められるように黒坂さんが土間をガラス張りにしてくれたんです。「視線の先に何を見せるか」とよくおっしゃっていましたけど、その借景を見たときに、なるほどこういうことなんだって気がつきました。

　お気に入りの場はもう一つあるんです。（洗面室を通って行って）、ここです、この洗濯室の窓です。（窓を開けて）お隣の家と家の間の先に、車が走る道路が見えるんです。ただ単に明かりを採るだけの窓を付けたのであれば、こうはうまくいかなかったと思うんですよ。ちょっと窓の位置がずれればすぐ外が隣家の壁で

スギの木肌が玄関まわりを彩る

隣家の庭を借景として臨めるリビングルーム

すからね。壁が見えるのと、車が行き交う街なかの光景が見えるのとでは生活の味わいが違ってくるのではないでしょうか。

これも、「視線の先に何を見せるか」という建築士の配慮があったからこそなんでしょうね。

ご主人の話　いまはまだ一緒に住んでいませんけど、いずれ両親が年老いたらこの家で暮らせるように10畳の寝室を準備しています。車椅子の生活に対応できるように、北側の引き戸を開ければ段差のない床を真っ直ぐに浴室まで行けるようになっていますし、反対側の南側の出入口のすぐ隣がトイレです。年老いるのは両親だけでなく、私たち夫婦も、子どもたちもいずれ必ず老いはやってきますから、そのときには、リビングの収納スペースをエレベータに改造することにしています。1階と2階の位置を合わせて収納を設けてあるのはそのためです。

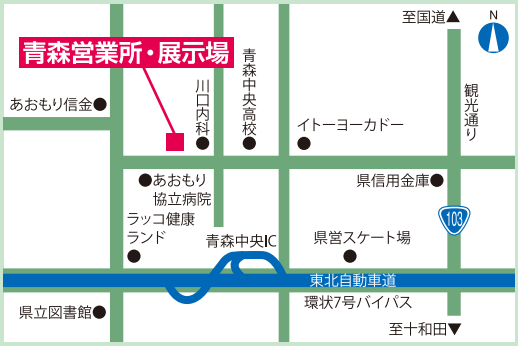
スギにやわらかく包まれた和室のたたずまい

黒坂建築士の話　「家族がそれぞれ各部屋を居心地の良い場所にしていくことを期待しています」という奥様の言葉が印象に残っています。その部屋に住む者がその部屋を居心地の良い場所に育てる。その家に住む家族がその家を居心地の良い家に育てる。家とは〝今を詰め込む〟のではなく〝築き育てていくもの〟だと気付かされた思いでした。

（写真提供／大山建工設計部　黒坂秀紀氏）

真心こめた住まいづくり
株式会社 大山建工

本　　社●三戸郡五戸町大字切谷内字淋代14-1
TEL.0178-68-3353 FAX.0178-68-2454
本　　部●八戸市大字河原木字千刈田7-1
TEL.0178-21-3055 FAX.0178-21-3033
http://ooyamano-ie.jp/
八戸ニュータウン展示場●八戸市西白山台3丁目19-14
青森営業所●青森市東大野1丁目8-3
TEL.017-762-3001



宮原様邸

村井様邸

地産地消に取り組む大工・工務店 07

有限会社 岡田工務店

ユーザー訪問

村井様邸（新築）

■三戸郡三戸町川守田　■2009年7月竣工
■延べ床面積／73坪（240㎡）
■使用青森県産材／スギ（柱）、ヒノキ（大黒柱）、アカマツ（梁）、ツガ（土台）など。

宮原邦夫様邸（リフォーム）

■三戸郡三戸町在府小路　■2010年9月竣工

村井様邸〈新築〉

すぐ近くの付き合い地場工務店の強み

ご主人の話　すぐ近くに岡田工務店があったので、それで頼みました。近い、ということは何かにつけていいと思いましてね。ちょっとしたことでも、すぐそこなら連絡しやすいし、すぐにやってきてくれると思って。ですから、別に他の工務店の住宅を見学しに行ったりはしませんでした。

今回建てた家は私としては2軒目で、最初は30代半ばに建てました。ここから坂道を下って行ったところにまだ建っていて、いまは娘が住んでいます。その坂道の途中に、岡田工務店の事務所があるんです。家がだんだんと古くなってきて（その家を建てたのは岡田工務店ではありませんが）ちょっとした補修工事はみな岡田さん（岡田雄一社長）に頼んでいました。ゆくゆくは畑をやるつもりで買っておいた土地（現在地）の土留め工事も岡田さんにお願いしました。そこに昨年（2009年）、息子夫婦と同居するいまの家を建てることになったときも、これまでのお付き合いで岡田さんに頼みました。でも、いくら近いからといっても、評判がいまいちであれば噂が耳に入ってくるものですが、岡田さんは、けっこうあちこちに建てていますからね。評判が良いから声がかかるのでしょう。

奥様の話　どんな家になるのか、間取り図だけからはうまく実感がつかめませんでしたけど、そしたら、こういう家になりますよって、模型を持ってきてくれたんです。屋根を取り外すと、中の様子がよく分かりました。2階の大きな部屋は、孫が成長すれば仕切られるようにドアが二つ付いていて、そんな細かなところ

室内の間取までも造り込まれた完成予想の模型

玄関ホールに飾ったステンドグラスが迎え入れる

までちゃんと作ってあるので実感がつかめました。その模型どおりにいまの家が建ったんですよ。

ご主人の話　一日のうち大概は居間のコタツの前に座ってるけど、いつも襖は開けておいて隣の和室が見えるようにしているんです。和室が見えてると、気持ちがさっぱりするんですよ、落ち着くっていうかね。とくに天井がいいね。本物のスギの一枚板だって大

スギの一枚板が張られた天井

結露防止のために、押入れの襖戸の下に設けられた換気口

ヒノキの大黒柱が立つ和室は、施主お気に入りの空間

和と洋の空間がつながる居間

工さんが言ってましたよ。建具も無垢材で、障子の下の部分とか、押入れの襖戸の下にも職人が細工した換気口が付いてるんですよ、結露防止なんだそうです。いいですよね、そういう昔ながらの知恵が生かされてるのって。だから、いつも襖あけて、和室が見えるようにしておくんです。

エントランスホールはゆったりとした板張りの床

宮原邦夫様邸〈リフォーム〉

知らず知らず見上げる天井の木の梁

ご主人の話　結婚することになって、初めはアパートを借りようかと考えたんですが、親の家の2階に、ダイニングキッチンと水回りを付け加えれば二世帯住宅になります。子どもが生まれても、親と一緒だと面倒をみてくれますから共働きできますしね。妻とも親とも意見が一致したので、岡田工務店に相談したんです。岡田（岡田大作専務）とは幼馴染みなんです。

ダイニングキッチンの内装なんかについては、専門家の岡田（専務）にすべてお任せしましたが、完成した室内を見て、私も妻も気に入ったのは、天井の木の梁です。座っていると、知らず知らず見上げているんですよ。木が見えてるのっていいですよね。

岡田専務の話　梁は、地元のアカマツを使った集成材です。三戸町の人たちって、あまり極端に木を現わしにして使うよりも、モダンな空間の中に、木の色合いが調和しているつくりのほうが受け入れるんですよ。〝モダン＋地元木材〟ですね。それを岡田工務店の特徴としてこれから打ち出していきたいですね。

キッチンの天井の木の梁は、施主ご夫妻のお気に入り

施主の宮原ご夫妻

ご主人の話　まだ結婚したばかりで、これから食卓テーブルを準備するんですけど、岡田（専務）が奨めている、無垢材でこしらえるテーブルも魅力ありますね。アカマツの梁を見ているだけでもいいなって思ってますから。たぶん、お願いすることになりそうですけど、いま妻と検討中です。

OK夢ホーム 有限会社 岡田工務店

三戸郡三戸町大字川守田字東張渡48-1
TEL.0179-23-6727　FAX.0179-23-6728
http://www14.plala.or.jp/bigmake/
E-mail : okada.office@orchid.plala.or.jp